

## きくがわ未来塾 実施報告

目的：地域の課題の解決や魅力発信のために、市民の自発的、積極的な活動への参加啓発を図り、新た  
に市民活動に参画する人材を育成する

概要：菊川のまちの魅力を高めるためのまちづくりのプランを企画し、実際の活動につなげる

講師：NPO 法人サプライズ 代表理事 飯倉清太氏

静岡県地域づくりアドバイザー

内閣官房地域活性化伝道師 総務省地域力創造アドバイザー

静岡大学地域創造学環客員教授 静岡鉄道株式会社顧問等

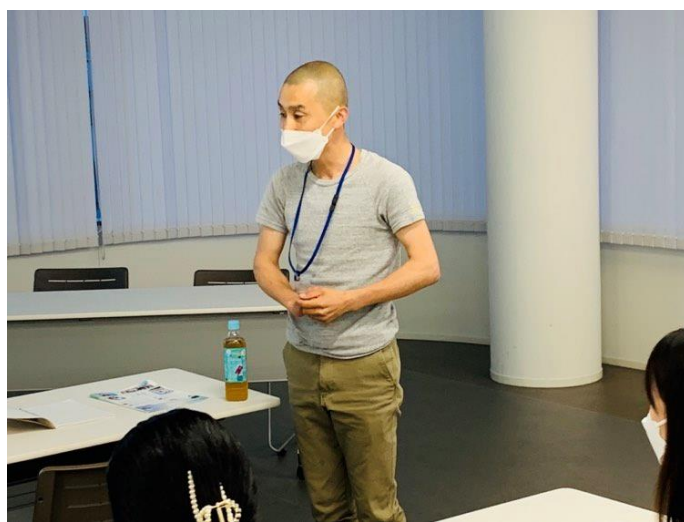
受講者：8人

会場：菊川市役所東館 プラザきくる3階会議室

日時	内容	詳細
6月21日(水) 18:30~20:30	第1回 オリエンテーション「未来塾とは」	講師による講義 きくがわ未来塾修了生による活動紹介
7月12日(水) 18:30~20:30	第2回 個人企画発表&チーム分け	アイデアシート発表
7月26日(水) 18:30~20:30	第3回 企画のブラッシュアップ	実現可能なまちづくりプランを検討 プランの発表とフィードバック
8月9日(水) 18:30~20:30	第4回 最終報告会	公開プレゼンテーション 賑わいづくり研究会・市役所職員・ 一般市民

# 令和4年度 人材育成講座 きくがわ未来塾 第1回 実施報告書

令和4年6月13日  
菊川市市民協働センター



## 挨拶

市民協働センターセンター長  
未来塾の紹介、概要説明  
飯倉清太氏、宇佐美竜一氏の紹介

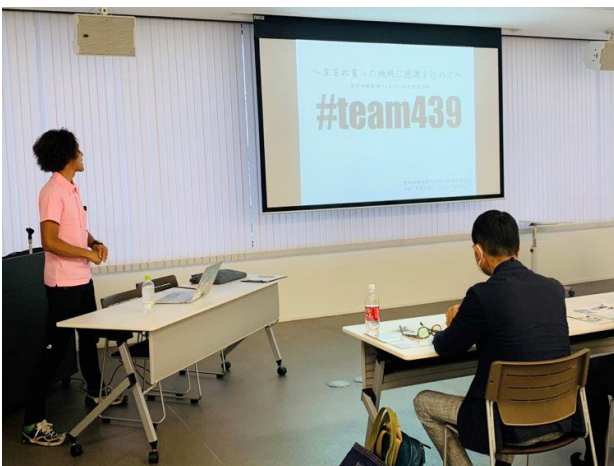


## 未来塾 OB の発表（Team439 代表 宇佐美竜一氏）

宇佐美竜一氏は Team439 菊川地域振興フェスティバル実行委員会の代表であり、生まれ育った地域に感謝を込めて活動していることを紹介しました。カーショップアイデアを経営し、ログハウスの販売も行っています。彼のライフスタイルは、ビーチサンダルで 12 時間屋久島のコースを歩くなど、遊びながら自分の責任で行動することを重視しています。過去の人生はやりたいことを追求することに注力してきたと述べています。

2016 年に未来塾を受講した宇佐美氏は、和田公園に木製のアスレチックや沢があったことや、遊具の老朽化により、それらが撤去されてしまったことを思い出しました。そこで、和田公園を再活性化する提案するプレゼンテーションを行いました。

宇佐美氏は自身の好きなことだけで活動することに限界を感じ、2017 年に任意団体を設立し、菊川運動公園でイベントを開催する際には子育て世代に向け、防災・減災をテーマにし地域全体のために活動しようと計画し、(公財)ふじの国未来財団などの助成を受け活動資金を確保することができました。その後、火剣山キャンプ場が赤字だったため、イベントを企画。また、市役所からの協力依頼に応じ、防災宿泊体験を実施し、これがきっかけに、防災のワークショップを定期的に行うようになりました。宇佐美氏の活動は 7 年間で変化し続けています。地域の活動を楽しみながら行っており、「ちいさなことでもいい」と述べています。彼の活動は誰かが得するためではなく、自分のためだけでなく、外国人や周りの人々、そして菊川全体のためになると信じています。





## オリエンテーション「未来塾とは？」

### 【1分間自己紹介】

- 袴田： 菊川に40年ぶりに帰ってきた。菊川を知らないが、周りの人々をどうにかしたいという思いで参加した。
- 中村： 金融機械業を営みながら、14年間にわたり自分の思いをカタチにする活動を行ってきた。子育て支援や学生への社会保険やお金に関する教育に関心があり、この機会を活かして参加した。
- 落合： モザイクタイル雑貨や地域おこし活動を行っている作家。富田地区の活性化を目指し、まだやり残したことがあり、他のメンバーと協力しながら参加することを決意した。
- 飯塚： 御前崎市から参加。コロナ禍で体調が悪化し、仕事を辞めて地域や市外で働くようになった。子育てをしながらあきらめたことがあり、再び挑戦してみようと思い参加した。
- 川崎： 常葉大学で心理学を専攻しており、幼稚園から大学まで加茂に住んでいる。すべての人が快適に生活できる環境づくりを目指し、菊川市役所で働きたいとの思いを持っている。
- 大嶽： 西方川の上流で生まれ、大学を卒業後17年ぶりに菊川に戻ってきた。積極的に地域に関わり、活動していきたいという意欲を持って参加した。
- 増田： 静岡大学教育学部で学んでおり、小学生が家庭の背景を活かして学び、生きる力を育むことに関心がある。社会教育士の資格を取得しようとしており、若者が主体となって参加することの重要性を強調している。

### 【飯倉氏から】

共感経済という考え方があり、自己紹介では名前だけでなく、動機や思いが伝わることで共感が生まれると述べられました。1分で自己紹介をするクセをつけることが記憶に残りやすくなるため、有効な方法とされています。



## 【飯倉清太氏 自己紹介】

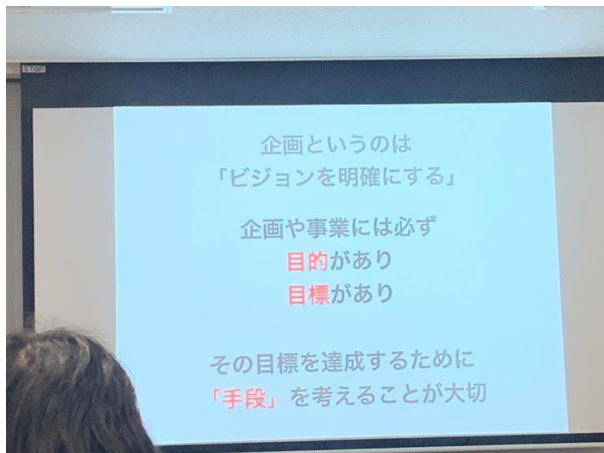
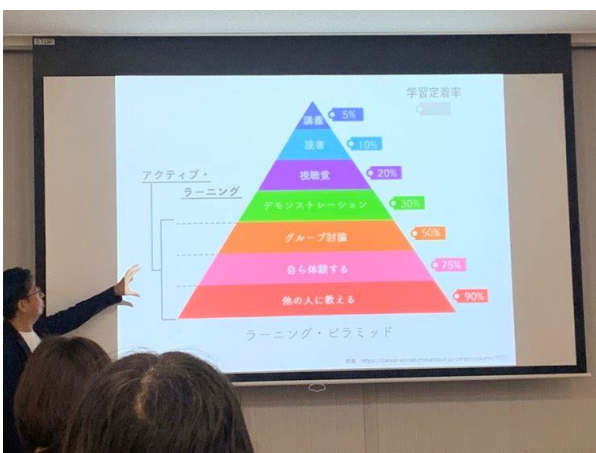
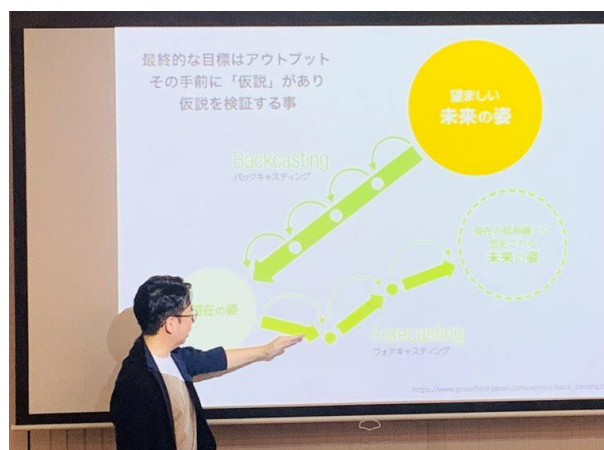
21歳で起業し、38歳からNPO法人を設立し、NPOの活動に関わっている。静岡鉄道の顧問も務めており、自身で様々な経験を積んできました。最近のテーマは「しずおかをまぜる、しずおかをまざる」

アイスクリーム屋を経営していたが、ゴミ拾いをきっかけに社会貢献に関心を持ち、活動を始めました。ゴミ拾いは誰でも簡単に参加できる奉仕活動であり、周囲の人々に声をかけてSNSで発信しました。ゴミ拾いをきっかけに様々なオファーがあったことで、まちづくりや事業の展開へと繋がっていききました。

企画においては、行動を起こさないと経験は得られない。小さなステップから動き出し、試行錯誤しながら進めることが重要です。

ビジネス的な視点では、相手に価値を提供することが重要です。Give & Takeのバランスを考え、お客様の幸せを考えながらビジネスを展開しています。

圧倒的な当事者意識を持つことが重要です。自身が主体的に行動し、企画を実現する意識が必要です。



## 【プレゼンとアイデアシート】

アイデアシートは、自身の頭の中を可視化するために大切なツール。アイデアを記入することで、自分の考えやビジョンを明確にすることができます。講座では、アイデアシートの内容をもとに3回のプレゼンを実施します。アイデアシートは人や地域によって異なる特色を持つため、各自の視点を反映させることが重要です。企画や事業には必ず目的と目標があります。目標を達成するためには、具体的な手段を考えることが重要です。

プロジェクトベースドラーニング（PBL）やアクティブラーニングを活用することで、学習定着率が高まります。インプットとアウトプットは相互に関連しており、アウトプットの間があることでインプットが加速します。また、質問を考えることは大切であり、バックキャストや走りながら進むことが可能性を高めます。目標値を明確にし、常に情報収集と学習を行い、ビジョンを明確にすることが基礎力です。

### 【アイデアシート記入】

実験：当たり前前の風景だから観察力が落ちる

実験①：当たり前前の風景だから観察力が落ちる

信号機の赤はどちら？

実験②：歩行者信号で赤が上か下か？

実験③：シャッター商店街の写真 誰が何に困っているのか？

存在する問題を調査し、原因を分析する。原因を洗い出し、解決策の立案を行う。解決方法の選択と洗い出しを行う。商店街の解決策の実行という面では、シャッターアートやトリックアートの導入。商店街のシャッターを広告に活用し、広告収入を得る。売り上げを上げる方法は客数・客単価・購入頻度の3つがあり、それぞれ異なるアプローチが必要。商店街の活性化を目指し、明確な目標設定が重要。

## 第2回未来塾について

次回の未来塾ではアイデアシートを記入してきてください。「SNSにアップする」はNGです。それぞれのSNSは異なる層に対して使われているため、どのSNSをなぜ使うかをはっきりさせる。企業や行政との協力を得るためには、組む理由が必要。また、アイデアシートを通じて、曖昧なアイデアを具現化することが重要です。アイデアシートが完璧に書けなくても問題ありません。

## 感想共有

- ・ 参加者同士で1分間の感想を共有します。

## クロージング・アンケート記入



# 令和5年度 人材育成講座 きくがわ未来塾 第2回 実施報告書

令和5年7月13日  
菊川市市民協働センター

実施日：令和5年7月12日（水）18：30～20：30

会場：プラザきくる3階会議室

概要：個人企画発表 アイデアを形にして発表しよう



## 挨拶

市民協働センターセンター長から全体へ挨拶

## アイデアシートを使ってチーム内で発表

(ひとり持ち時間は15分・発表2分 悩みを打ち明けたり、アドバイスを受けてりする時間)

・チームメンバー発表者のアドバイザーとなり助言する

(アドバイスをする力、質問する力を身につける。場合によっては人を繋いだり、紹介したりする)



## ショートプレゼン

全員の前で2分以内に自分のアイデアのプレゼンテーションを行った。

### 落合田枝子さん

#### 【ショートプレゼン】

- プロジェクトタイトル「いなかりる」
- 目的は菊川市富田の魅力を見直し、外部からの訪問者を増やすことで、田舎の人口流出を解決する。
- 発信方法は作家活動している人に SNS を使って発信してもらう。市民活動団体を作って登録し、マルシェやチラシなどで発信する。
- 一年後の目標は自宅敷地にカフェを作り、年2回のマルシェ開催やローカルツアーの実施など、地域の活性化を図る。
- 働きかけ方は地元の人に再認識してもらい、口コミで広がる。作家や店舗経営者の協力を得て発信することも会などを通じて子供やその家族に魅力を伝える。

#### 【質疑応答・コメント】

- 地区で活躍されている方々と協力して、年に2回のマルシェを開催する予定。また、地域の宿泊施設であるドルに宿泊する人たちに対して、ローカルツアーやレンタサイクルワークショップを提供する計画もある。
- 地域の魅力を再発見するためには、まず自分自身が地元の良さを理解し、その魅力を口コミや話を通じて他の人々に伝えることが大切。私自身も地元を探索し、茶畑や自然の豊かさなどを再発見しました。それを通じて、地元の人々や訪れる人々にも同じような体験をしてもらい、魅力を再確認してもらえるようにする。



- ファンベースの形成について、長期的な戦略として、共感・愛着・信頼を築き、ファンを増やすことを目指すのはどうか。具体的な戦略としては、地元の人々に再認識してもらい、口コミで広がるような活動を行うことや、作家や店舗経営者の協力を得て発信することが考えられる。

## 増田有花さん

### 【ショートプレゼン】

- 家庭科教育のための地域資源を活用したプロジェクトについての紹介。
- 家庭科の授業で実践的な経験を積む機会が少ないことや、成績評価の重要性についての課題意識を共有した。
- 地域の農家の方々と連携し、子供たちが地域資源に関心を持つ機会を提供することを目指す。
- プロジェクトのキャッチコピーは「地域の宝さがしよう」
- 発信方法としては、インスタグラムやツイッター、学校の掲示などを考えている。
- 一年後の目標は、子供たちが地域資源に興味を持つこと。三年後の目標は、子供たちが主体的に地域資源を活用できるようになること。
- 食育に重点を置き、地域の農家と協力して食事作りや調理実習を行う予定。

### 【質疑応答・コメント】

- 参加者から発信方法に関する質問があり、インスタグラムやツイッター、学校の掲示を活用する
- 子どもの年齢やターゲットは小中学生の農業に興味のある層を重点的に対象にしてもいいのではないか。
- 関係者との連携についての質問があり、地域の農家や関係者と連携して実施してもいいのでは？
- 子どもたちが自分の体をつくっている食べ物について知ることが重要。プロジェクトの焦点や目的が変わらない限り、成功すると思う。

## 川崎菜友未さん

### 【ショートプレゼン】

- 菊川市において、スカウト型就活マッチングイベントを開催する提案。
- 対象は市内外の高校生と大学生で、企業の代表者と就活生と一緒に会場に集まり、企業のプレゼンと対談を行う。
- 企業側が興味を持った就活生に声をかけてスカウトする形式のイベント。
- 背景として、マイナビリクナビなどの就活アプリでは市内の中小企業情報が十分に掲載されておらず、情報の不足があるため、マッチングイベントを通じて企業と就活生のマッチングを促進し、就職活動の効率化を図る。
- この活動を通じて、菊川市の働き手不足や若者の県外流出を防ぐことを目指している。
- 発信方法としては、企業側にメールや手紙、訪問などを検討し、学生に対しては菊川市の公式アカウントや学校のキャリアサポートセンターを通じて情報を発信する予定。

### 【質疑応答・コメント】

- 参加者から、他の就職イベントやマッチングサービスとの差別化についての質問があり、スカウト型のイベントがより効果的なマッチングを生み出す。
- 市内の企業の採用ニーズや学生の希望についての調査が重要であることが指摘され、市内の学生が菊川で働きたいと思っているかどうかを把握する必要があるのではないかと。
- 静岡市はイベントや工場見学などを活用したマッチングイベントもある。

## 袴田浩章さん

### 【ショートプレゼン】

- ゴミ袋大研究プロジェクトについての紹介。プロジェクトタイトルは「ゴミ袋」。
- 市町村ごとのゴミ袋のルール、容量、素材などを徹底的に調査する計画。
- ゴミ袋に関心を持ってもらい、菊川新住民の考え方を知ることが目的。
- ゴミ袋規制の基準の探求。
- ゴミ袋選びのテーマとして、将来の選択肢について考える。
- 焼却施設見学などの活動を通じてゴミ問題に関心を持つことを提案。
- ゴミ袋のサイズや素材の違いについての興味と疑問をもったことがきっかけで、全国の島地でのゴミ袋の規制の違いに関心もった。
- アンケート調査を行い、ゴミ袋に関わる人々の意見やデータを収集する。

### 【質疑応答・コメント】

- ゴミ袋の研究において興味深いポイントについて話す。
- ゴミ袋のサイズや素材の違いについて、効率や環境への影響を考える。
- 温暖化とゴミ袋の関連について。
- 全国のゴミ袋の規制の違いについて疑問があるので解決してほしい。
- ゴミ袋に関わる人々の意見を収集するためのアンケート調査が重要。
- ゴミ袋の安さという観点についても考え欲しい。

## 大嶽心吾さん

### 【ショートプレゼン】

- 市民向けのスマートフォン講座。
- シニア世代におけるデジタル格差の解消を目指すことが目的。
- 講座のタイトルは「市民向けスマートフォン講座」で、キャッチコピーは「デジタル格差をなくして」。
- 具体的な活動として、公共施設や高齢者向けのサロンなどで講座を開催し、シニア層にスマートフォンの使い方を教える予定。
- 将来的には、若い世代や施設のスタッフにもスマートフォンを活用する方法を教え、シニア層とのデジタルギャップを埋める取り組みも行いたい

### 【質疑応答・コメント】

- 老人ホームなどでの講座を展開する。将来的には多様な場所で活動する予定。
- 高校生が教えることが新たな発見やビジネスに発展する可能性がある。



### ショートプレゼン全体への講師からコメント

- 「同じこと」を「同じ場所」で「別の人」がやると「違う結果」になる。
- ファンベースをつくっていくことが重要。
- プレゼンは何をしたいか→なぜやりたいか→どうやるか（結論・背景・課題・仮説・提案）の順でつくっていく

### 第3回未来塾について

1人10分以内のプレゼンテーションをパワーポイントで作って次回発表の練習。注意点として以下のことに気をつけてプレゼンをつくる

- ① 菊川市のためになることがよい
- ② 市に対しての要望は NG
- ③ 机上の空論も NG
- ④ 一度やってみることが大事
- ⑤ 新聞に取り上げられるようなことがよい



# 令和5年度 人材育成講座 きくがわ未来塾

## 第3回 実施報告書

令和5年7月27日

菊川市市民協働センター

実施日：令和5年7月26日（水）18：30～20：30

会場：プラザきくる3階会議室

概要：企画のブラッシュアップ ミーティング&プレプレゼンテーション



## 挨拶

市民協働センターセンター長から全体へ挨拶

## プレゼン発表（各 10 分）・参加者、講師からコメント

### 袴田浩章さん

【プレゼン内容】は静岡県 35 市町の可燃ごみ指定袋に関する研究を行い、菊川市を中心にゴミ袋についての調査とアンケートを実施。ゴミ袋の現状は、単価は 20 円で容量は 30L であり、79%の市民が 30L のゴミ袋を使用していることがわかった。アンケートでは、市民の声としては丈夫で自立できるゴミ袋を求める一方、名前や地区を書きたくないという要望もあった。袴田さんはゴミと向き合うことを目標に掲げ、リサイクルを通じて経済を活性化し、菊川を全国 No.1 のサステナブルシティにすることを提案した。

### 【参加者コメント要約】

- ・ 数字をもとにした発表で、調査がしっかり行われていて良かった。
- ・ ゴミ袋のサイズやゴールに対して、もっと具体的な考えが欲しい。
- ・ ゴミ袋の違いや市民の声に共感した。
- ・ リサイクルプロジェクトについてもっと詳細を知りたい。
- ・ ゴミ袋の視点に感心しましたが、弱くする理由や他の処分方法が気になった。

### 【講師コメント要約】

- ・ 名前とタイトルを目立たせることが大切。
- ・ 背景がしっかりしており、効果的な演出があった。
- ・ データの見せ方を工夫し、他の市町の事例を取り入れるとよい。
- ・ プレゼンのストーリー性を高めると共感が得られる。
- ・ 服のセカンドキャリアやペットのオムツ問題にも触れると説得力が増す。
- ・ 自身のアクションプランを明確にするとよい。



### 中村淑史さん

### 【プレゼン内容】

菊川市の仕事体感プロジェクトを提案。このプロジェクトでは、地元の子どもたちに菊川市の企業や商店などの仕事を体験させることで、地域の魅力を再認識し、将来地元で働くことをイメージさせることを目的とした。具体的には学校を通じて協力を依頼し、地元のおとなが仕事の姿や声を体感する機会を提供し、その経験を全生徒に向けて発信していく。

#### 【参加者コメント要約】

- ・ 地域の仕事体感プロジェクトで経験をすると、地元のファンになるという視点に共感した。
- ・ 未来授業との連携を考えると面白いと感じた。
- ・ 身近な存在を多角的に考えるアプローチが良い。
- ・ 新規性を出すことが重要。
- ・ 実施期間や対象年齢についての質問がありました。
- ・ 小学生をターゲットにした理由や協力企業に個別で依頼するアイデアに説得力を感じた。

#### 【講師コメント要約】

- ・ タイトルが明確で良い。
- ・ 他の市町での事例を参考にできる点が良い。
- ・ 小学生を対象にする場合、学習の定着率を考慮しアウトプットを設計する必要がある。
- ・ 菊川ならではのアレンジのアイデアを盛り込むとプロジェクトに個性が出る。
- ・ 教育委員会へのアプローチは難しい場合もあるため、学校を通じたアプローチを検討する。
- ・ 協力企業を増やすため、CSR を行う企業との連携も検討する。
- ・ 他の事業の事例を取り入れつつ、具体的なアクションプランを示すと良い。

#### 芳賀章浩さん

##### 【プレゼン内容】

「ベッドタウン菊川構想」として、菊川市の子育てを魅力的に発信することを提案した。コロナによる孤育ての増加や子育て世代への情報発信の不足を改善し、地域の子育て環境を充実させることが目的。「きくすく」や「しまいく」などのプロジェクトを通じて情報の一元化を図り、インスタグラムの運用と連携してママたちのつながりを強化したい。今後は企業との提携を考えていく。

##### 【参加者コメント要約】

- ・ 具体的でわかりやすいプレゼンで、ロードマップや展開が理解できた。
- ・ 子育て中のママ同士のコミュニティが大切で、情報発信が必要だと感じた。
- ・ 子育てしやすい環境を整えることで、他県からも子育てしやすいと言われる地域になると期待したい。
- ・ 新しいアイデアの取り入れはハードルが高いが、実現に向けてがんばってほしい。
- ・ 子育てに関する情報はきくのんマップに改善の余地がある。

##### 【講師コメント要約】

- ・ スライドの色が菊川らしく良い点。
- ・ 少子化突破戦略の視点で出生率が重要である。
- ・ インスタグラムなどの SNS を活用したビジュアル的な情報発信の効果がある。
- ・ 芳賀さんの今後のアクションについてプレゼンがあると望ましい。
- ・ 現在の子育ての範囲が広がっており、未来の予測も重要。
- ・ 核家族化が進む中で、人口増加や世帯数の増加がある。

#### 増田有花さん

##### 【プレゼン内容】

「地域資源を活用した生活講座」をテーマに食育、衣、住むというステップを通じて、地域の農家や高校生との交流や自給自足の生活を体験し、菊川市の農業振興や伝統的食文化の衰退への提案をプレゼンテーション発表があった。

##### 【参加者コメント要約】



- ・ 具体的でわかりやすいプレゼンで、各ステップについても言及してほしい。
- ・ 日本の伝統と地元に着目し、若い世代がつくることが重要。
- ・ 食育だけでなく、衣や住むという要素も学べるのが価値ある。
- ・ 高校生と一緒に活動することや家族での食事の重要性も伝えてほしい。
- ・ 農家の育成や目的に応じたアプローチを明確にすると分かりやすくなる。

#### 【講師コメント要約】

- ・ 仮説を追加し、1年生から実施する方法を示したほうがいい。
- ・ ターゲットを広げて協力者をまとめ、実現に向けてこどもと農家の役割を明確化する必要があると思う。
- ・ カリキュラムを明示し、次回までにこどもの集め方を考えた方がいい。



### 川崎菜友未さん

#### 【プレゼン内容】

「きくがわ Job フェア」高校生や大学生を対象に、企業が学生にプレゼンを行ったり、対談したりして交流するイベントで、就活生の効率的な企業情報収集と地域の人口流出防止を目指している。

#### 【参加者コメント要約】

- ・ 実際に就活している学生の視点を持っており、企業の想いも考えられているのがいい。
- ・ イベントの具体性を高めるためにテーマを設定し、企業の協賛も募ってもいい。就職に悩む学生にとって、菊川限定のイベントとして魅力的であると感じる参加者もいるのではないかと。

#### 【講師コメント要約】

- ・ 企業の求人情報サイトや学生の意向に注目し、イベントに来てくれる企業を増やす方法を考えることが重要。
- ・ 面白いイベントを開催すると、次回も参加企業が増える可能性がある。
- ・ Web での開催や学生の運営についても考えると良い。一部の企業は費用を出すこともあると思う。



## 落合田枝子さん

### 【プレゼン内容】

「いなかりる」富田の魅力を発信するプロジェクトで、菊川市の観光交流人口の向上を目指し、自然豊かな富田地区の魅力を紹介することに焦点を当てている。富田縁市やいなかりる宿泊ツアーなど何もないのコンセプトで観光地としての魅力を発信する。



### 【参加者コメント要約】

- ・ 実際に行きたいと思う、コンセプトが現代に合っている。
- ・ 菊川市に住んでいて知らないことが多かった。
- ・ 内容が多く、伝え方が上手で、熱意が伝わるプレゼンだった。
- ・ 予算の内訳についての情報があれば良いのではないかな？

### 【講師コメント要約】

- ・ 観光交流人数に注目するのではなく、質を重視すること。
- ・ 写真や情報をシンプルにまとめて、観光地の魅力を一枚で伝える工夫をしたほうがいい。
- ・ リピート率を増やすために、特化した体験や商品を重視してもいいのではないかな。また、外国人観光客にもアプローチすることも重要。



### 【センター長 コメント】

- ・ プレゼン内容には前回のアイデアシートから、短期間にもかかわらずしっかりとまとめられていた。
- ・ 目的や意図が明確で、なぜそのプロジェクトを実施したいのかが伝わってきた。
- ・ 具体的な数字や他の市町の事例を取り入れていたことで、説得力があった。
- ・ 参加者からは、自身がどう行動するかについての情報が欲しい。

# 令和5年度 人材育成講座 きくがわ未来塾

## 第4回 実施報告書 公開プレゼンテーション

令和5年8月22日  
菊川市市民協働センター

実施日：令和5年8月9日（水）18：30～20：30

会場：プラザきくる3階会議室

概要：公開プレプレゼンテーション

参加者：40人





## 1. 開会

○挨拶 菊川市役所地域支援課 石川浩朗課長

## 2. チームごとにまちづくりプランの発表・アドバイザーコメント

- ① いなかりる ～何もないをブランドに～ 河城地区の魅力発信と観光コンテンツの創出  
コメント：継続的に運営していけることが重要。提案していただければ、モデル的に調査できる。来てもらって嬉しいだけでなく、市外の人から観光として来てもらうこと。しっかりとサービスとして対価を得ることも考えて行ければと思う。
- ② 魅力的な子育てのまち菊川の発信：子育て情報を SNS で発信  
コメント：アナログなフレームがありつつ、インスタのようなプラットフォームでやっていくのはとてもいいと思う。何らかの次の展開があることを期待します。
- ③ 菊川のシゴト体感プロジェクト：小学生の地元企業の職場体験の実施  
コメント：工場の祭典をしている工場は、毎年 1 人採用に 20 人応募がある。そこがそういう募集をしているという情報を知っているから人が集まる。小さい子から、知っている。中学生になって、情報を知ることが大事だと思う。
- ④ 静岡県 3 5 市町の可燃ごみ指定袋の研究 ごみ袋と向き合ってみた！：指定ゴミ袋の研究とサステナブルシティ菊川に向けての取り組み  
コメント：最初はゴミ袋が破れやすいから始まり、ゴミ問題に興味をもったというのはとてもいい。伊豆はコンポストへの補助、生ごみを乾燥させて捨てるとう燃えやすく、コストの削減になる。一人一人が努力することで変わっていく。紙おむつの観点からは面白いと思う。
- ⑤ きくがわ JOB フェア～ 企業の方のぶっちゃけ話も聞けるかも！？～：企業と学生のマッチングイベントの開催  
コメント：就活生の実感が詰まったプレゼンだった。仕組みとしてはなるべく早くアプローチするのがいい。最低 5 社くらいは参加してもらおうといい。この中で協力企業を探してくれる人もいるでしょう。
- ⑥ 菊川まるごとデジタル化！～スマホを使いこなそう～：シニア層へのスマートフォン教室とスマートフォンアドバイザーの育成  
コメント：スマホアドバイザーの資格をとるというのは、前向きでとてもいい。社会的にとってもニーズのあることだと思うので、是非実践して欲しい。
- ⑦ 地域資源を活用した生活講座 ～地域の宝を生活に生かそう～：高校や農家と連携した小中学生への食育講座  
コメント：自分の体を形成しているものが誰が作っているのか知らない生活を私たちはしている。自分の細胞を自分で作ってみる。2050 年の世界は日本は 1 億人を切っているが世界は 1 8 億人増えていく。食料の問題はお肉、野菜、水は足りなくなるというの、気候も変わっていく時代になっている。それをいち早く取り組むのは my 畑としてやるのは面白いと思う。



## 「きくがわ未来塾」プレゼンテーション参加者コメント

### ① 魅力的な子育てのまち菊川の発信

- ・今はどの自治体でも子育て支援やその取り組みの発信に力を入れている為、若者世代が多く利用するインスタグラムでの“見せ方”が大変重要であると改めて思った。
- ・私も、将来は菊川市で出産・子育てをしたいと考えているので誰もが使いやすい子育てアプリ、見やすい情報サイトができれば嬉しい。
- ・近隣自治体の事例をもとに、目指すイメージが具体的に伝わるプレゼンだった。
- ・情報発信と環境整備両立！
- ・家庭科の子育ての授業で SNS での発信について紹介したいと思った。
- ・子どもを遊ばせる公園をいつも妻（移住してきた）が探しているので紹介して欲しい
- ・きくのんマップへの子育て施設の追加はすぐにできるし、きくのんマップをもっとブラッシュアップすれば使えるツールになるなと思った。
- ・官民連携でというところがポイントだと思う。
- ・インスタをうまく使って現存する「きくすく」と双方に良くなると思う。
- ・子育て情報を発信するのにインスタを活用するのは利便性、親しみやすさがいいと思う。
- ・インスタの運用について誰が運用管理するのかその継続性が課題かと思う。
- ・子育てについて菊川市の弱い所を鋭く分析し、SNS を使った具体的な対策が立てられており、素晴らしかった。
- ・他の市の情報発信から菊川市の問題点を掴んでいたのが良かったと思う。
- ・子育て世代のことを考えて細かいところまで配慮されていた。
- ・子育て世代であるが菊川市の子育ての情報はあまり知らない。やはり SNS の発信が有効

であると思う。

- ・長く続いている地区の小さかったり公的だったりするイベントだけでなく、マイナーな個人開催のイベントも周知できるのは嬉しい。
- ・課題認識はわかるが、目指すべきことがちょっと難しかったかも…。
- ・時代に沿った（Instagram）形で情報発信をすることが重要。
- ・子育て中、忙しい中で調べる時間も惜しいので見やすいサイト、SNS が大切だと思った。
- ・提案の根拠が明確で、とても説得力のある報告だったと思う。
- ・実際に課題と思いながら手法が様々で、効果に対し選択するものを決めるのが難しいと感じた。
- ・子育て情報を得るためのコンテンツの多様化が重要。
- ・市の発信方法は一考の余地あり。
- ・現在ある資源を活用しながらの具体策の提案があり、とても良かった。
- ・若者が一番使っているインスタに視点を当てた支援策は実現できそう！
- ・他市と比べて菊川市のホームページが分かりにくく、出生率の高いまちであるが伝わり切れていない現状を知ることができた。
- ・他市町の情報発信との差を良く勉強していた。
- ・菊川市の出生の傾向、足りない点などを良く調査していた。

## ② いなかりる～何もないをブランドに～

- ・より外（市外）からの認知、サービス利用に繋がり、菊川の利益になっていく企画、手法になるといいと思った。
- ・菊川市に代表的な観光地はないが、自然や人のやさしさに溢れたまちなので私もそれを外部に発信したいという同じ思いがある。
- ・菊川市に長年住んでいても、知らなかった河城地区のスポットをまずに率先して発信して頂きたい。
- ・「何もない」という発想がエポックで、実際に行ってみたいと強く見えるものだった。
- ・市にもたらされる経済的な効果が期待でき、素晴らしい企画だと感じた。
- ・ネットで検索してみたが、なかなか出てこない…これができればもっと拡散できる。
- ・「どこか遊びに行こう！」「おでかけしよう！」と友人や家族の間で話題になった時、有名観光やテーマパークの名前が挙がるが、交通費を考えてあきらめてしまうことがあつ



た。

- ・「地元菊川市で楽しもう！」と声をかけてみようと思った。
- ・田舎を大切に考えて今ある資源を上手に使うことに着目していたので、実現しやすい企画になっていたと感じた。
- ・個人的に河城地区が好きなので協力できることがあればと思う。
- ・「おすすりめスポットを回る」は楽しみにしている人も多いと思う。
- ・具体的なプラン満載で特に座禅体験などは外国の方々にも喜んでもらえそう。
- ・スライドも見やすくて良かった。
- ・観光地、お店の開店状況などを発信できると特に市外の人にいいかなと思う。→せっかくきてもやっていないとがっかりしちゃうため。
- ・スタンプの保管は難しいのでアプリの方がいいのでは？（QRコードをスキャンするなど）
- ・協力者もいて実現まで資源も考えられていて実践に向けてしっかり考えていらっしやるのだなと思った。
- ・菊川には何もない←そんなことはありません。具体的に見つけたものの紹介もあり。いっぱいあるね！
- ・提案：「菊川の魅力発掘アイデアコンテスト」を行うのもいいと思う。
- ・メジャーな観光地ではないが菊川市の魅力を分かってもらえるような仕組みになっていいと思う。
- ・まだまだ知らないところがたくさんあることを知る機会になった。
- ・観光には体験してもらうことが重要だと思った。
- ・現実的かつ効率的な提案だった。
- ・プロダクトの価値を上げることは重要だが、一棟貸しの民泊を前に出すことで集客の核となりうる。
- ・レンタサイクルとの連携は可能性が高い。
- ・人を呼べる、楽しめるスポット、あるいはまだ広まっていないスポットをつなげることは有効だと思う。また、地元では気付かない魅力（風景等）もあると思う。
- ・市外・地域外から人を呼び込むことで地位の活性化につながりますが、どう発信するか、どう継続していくかが重要になってくると思う。
- ・何もない、自分もそう思ったことがある。
- ・見方を変えることで色々見つかることが分かった。

- ・地元への愛情と発想、来れば楽しめるという自信がとてもいいなと思った。
- ・河城や知らないスポットが多いのにも驚いた。
- ・色々な意見をぜひ取り入れて続いて欲しいと思う。
- ・素晴らしい提案だった。
- ・私も河城に住んでいますが、知らないところもいくつかあった
- ・「何もないをブランドに」という発想が素敵だった。
- ・ローカルを売りにするプランが良かった。
- ・ここ数年、おすすめスポットが増えてきている為、魅力発信に繋げて欲しい。
- ・菊川にも沢山の魅力的な場所があることが知れた。
- ・私も田舎育ちなので自然の良さを知っているつもりだ。多くの人に自然の良さを知ってほしいので、プレゼン内容に共感できた。
- ・菊川市の弱み（何もない）をあえて、強み（ブランド化）にする発想が面白かった。
- ・のんびりしたい人にはいい企画。

### ③ 菊川まるごとデジタル化！～スマホを使いこなそう～

- ・つながりが無いと情報に触れる機会のないシニア層に、地元の施設、地元の人が発信をして盛り上げて頂けたらいいなと思った。
- ・シニア世代のデジタルデバイドは地震などの災害時の生死にも関わると改めて感じた。
- ・シニア世代の所持率が高いアンドロイドと若者世代の所持率の高いアイフォンで使い方が異なることもデジタルデバイドが生じる原因だと知りたい。
- ・まずは、自身の母など身近な人にスマホの使い方を教えていきたい。
- ・間違いなくニーズのある分野だと思う。
- ・情報発信がうまくはまれば、多くの人が集まるのではないかと感じた。
- ・スマホ 資格取得は素晴らしい。
- ・「大切なもの（命）を失ってしまう」という言葉がとても印象に残った。
- ・祖父母にも勧めたいと思う。
- ・シニアを取り残さない気持ちと、家族に対して試していたことが現実味有り良かった。
- ・資格があると官民で取り組みやすいと思う。
- ・スマホのアドバイザーはどんな人を想定しているのか？ボランティア？受講料はどれくらいを想定しているのか？収入面はどうするのか？
- ・アドバイザーになる方が何かしらの謝礼等も考える仕組みにするほうがいいかと思っ

た。

・困っているけどどこへ行けばいいのかわからない人や、困ってないけど知りたいという方は多いのではないかと思った。

・デジタル格差をなくす取り組みは色々なところでやっていますね。大切なコトと思う。

・特にシニアで参考になるのは NPO 法人静岡団魂創業塾の取り組みだと思う。

・若者と高齢者でデジタル格差ができる仕組みが分かった。

・身近な人に教えられる環境を作るのが大事だと思う。

・スマホの使い方で困っているシニア層は多いと思うので助かる人が増えそう。

・アイフォンユーザーを増やす方が早そう。

・現状把握から課題の分析、対応への流れがスムーズ。

・企画までの流れと同様に企画の効果を上げるための分析することで、より社会のスマホ利用の向上につながって欲しい。

・お年寄りの方々がデジタル化に乗り遅れないようにという気持ちが伝わってきた。

・デジタル化の中で高齢者が使えるようになることも重要と思った。

・分析がとても面白いと思った。

・今あるものとの違いが明確になればまた参加しやすい仕掛けをぜひ作ってほしい。

・親がアンドロイド、子どもはアイフォン…まさに我が家のことで、娘からなかなか教えてもらえない体験が思い出した。

・私もスマホ教室やろうと思っていた。

・アンドロイドなので指導できるかも！？

・身近な場所にスマホ操作を教えてくれる機会があるのは良い（実体験としても）

・シニア世代だとアイフォンなのかアンドロイドなのかもわかっていない人もいるのでは！？

・ここ 10 年間のスマホの普及率に驚いた。

・高齢者の方はスマートフォンを所持しているが使いこなせていない。

・スマホ講座を行うことで不正アクセスの防止や利便性の向上につながることを期待できる。

・スマホのデジタル化が進まない要因（アイフォンとアンドロイドの習得の違い）をよく勉強していた。

・スマホの操作方法を習得する必要性が強く感じられた。

#### ④きくがわ JOB フェア~企業と学生のマッチング~

- ・実現の可能性を感じる内容だった。
- ・地元の特化した企業を見られるというのが菊川を盛り上げることに繋がるといいと思う。
- ・学生・採用側双方にとって魅力的画合的だと感じた。
- ・就職活動の最中にあるからこそその素晴らしい発想だと思う。
- ・業種的に一番スキルが高い企業を推定し、スキルのすごさを見せつけるべき！
- ・今は有名企業ではなくスキルを個々身につけること。
- ・リクナビ・マイナビなど終活アプリを活用しているが、地元の企業を見つけることや、自分のやりたい事と企業の仕事内容が合わない等様々な壁があると実感したため、実際に企業と対談できる機会があると嬉しいと思った。
- ・採用が取れないと悩んでいる企業が多いと市職員さんから話があったので、上手くマッチングできそうな気がした。
- ・商工会青年部の皆さんに発信すれば企業側の募集はすぐにできそうだった。
- ・等身大のテーマだった。だからこそ気づくことも多いと思った。
- ・中学生の頃からの思いがそのまま反映されていてすごいと思った。
- ・菊川で働きたいと思っている人がどれくらいいるのか？
- ・ある程度人を集めることができれば企業はもっと高いお金を払うと思う。
- ・5000円は安すぎるため参加者の本気度に影響しそう。
- ・学生目線のお仕事フェアは凄く求めている学生さんが多いのではないかなと思った。
- ・企業、学生共にメリットのある企画だと思う。頑張ってください。
- ・菊川の企業と菊川の学生との地元のつながりが深まる良い企画だった。
- ・企業側も学生側も非常にメリットがあると思う。働きたい人も増えるのではないかな？
- ・私はこれから就活を考える身だが大学からの情報だと菊川市での就職先はかなり限られた情報しかないので選択肢にも入らないが、こういった取り組みがあれば周りの友達と参加したいと思った。
- ・菊川市に市内外問わず若者を呼ぶにはいいきっかけになると思う。
- ・学生側が企業マッチングに求めるニーズが分かった。
- ・行政側は企業側の学生マッチングに求めるニーズにそってサービスを実施しているかもしれない。
- ・自身の中学の思いをもとに取り組まれていることはすばらしいと感じた。



・自分の子どもが大きくなった時こんなイベントが行われていればありがたいなと思った。

- ・企業のメリットが大きいと思うので実現してほしい。
- ・「企業に触れる機会があれば…」は感じるところがある。
- ・自分の体験からもプレゼンに説得力があると感じた。
- ・大学生が求める説明会のひとつとして面白いと思う。
- ・ご自身の就活を通して具体的な提案でぜひ実現して頂きたいと思う。
- ・説明が簡潔にまとめられており、パワポのスライドも分かりやすかった。
- ・経験に基づいた提案で説得力があり良い取り組みだと感じた。
- ・実体験を基にした提案が良かった。
- ・進路を考え始める中学生からのアプローチができると将来につながりやすいと感じた。
- ・昨年度、私も就活していたが菊川市の企業についてほとんど情報がなく苦勞した。私は大学生活で愛知に4年間住んでいるときに、企業説明会に何度も参加した。そこで様々な企業を知ることができていい経験になった。菊川市でも説明会を行うべきだと再認識した。
- ・菊川の就職率向上をよく考えた企画だと思う。

#### ⑤静岡県 35 市町の可燃ごみ指定袋の研究 ごみ袋と向き合ってみた！

- ・他の市町と比較してみるとなぜ？という事が多く驚きた。
- ・具体的な事例、数値が出てきて提案までが前回よりもとても分かりやすく良かった。
- ・紙おむつの取り組みは面白いだね。
- ・ごみ袋事態に関心を持ったことはなかったので面白く聞かせて頂きた。
- ・紙おむつにピックアップしていて新しい発想で興味深かった。
- ・斬新な視点での研究だなと感じた。
- ・ごみについては市町によって分別方法や袋回収方法など違うため、要望や不満いつながりやすいと思う。その分改善にもつながりやすい。
- ・ごみ問題は住みやすさ問題につながっていくのではないか。
- ・ごみ袋の大きさや素材、金額が市町によってかなり違うことを知らなかった。
- ・アンケートも実施し、色々なデータに基づいて説明していて良かった。
- ・紙おむつのリサイクルは以前からできたらいいと思っていたので実現できたら素晴らしいと思う。

- ・ごみ袋と向き合ってみた←視点が面白い！
- ・紙おむつのリサイクルは行政も注目している点であり、研究が必要だと感じた。
- ・研究の視点、突き詰め具合が面白いと思った。
- ・おむつのリサイクル側の状況についても提案があると実効性が高まると思う。
- ・ごみ袋から見出した課題、参考になった。
- ・詳細な分析は大変参考になった。
- ・今後の高齢化社会に向けて焼却経費の向上も見込まれる中、一人一人の認識を変えていく提案として興味深かった。
- ・目の付けどころが凄く面白い。
- ・普段使っているものが詳しく知れて勉強になった。
- ・ごみ問題の話はよく聞きますが、ごみ袋について考えたことはなかったので視点が面白いと思った。
- ・35市町のごみ袋調査・アンケート44件←すごい行動力だね！
- ・紙おむつ専用ごみ袋企画：素晴らしいと思う。
- ・とてもユニークで面白い研究だと思った。
- ・菊川市のごみ袋は確かに小さく破れやすいなと思う。
- ・紙おむつとごみの焼却の関係は、新たな視点だったので面白かった。
- ・「ごみ袋について」かたサステナビリティへつなげて考えていくこと、おむつのリサイクルなど…視点が凄いなと思った。
- ・紙おむつ専用ごみ袋アイデアはとても共感した。
- ・プレゼンが面白く引き付けられた。
- ・おむつ以外のことでも自分でできることを考えてみたいと思う。
- ・ごみ袋の研究からごみの削減に向けての取り組みへと展開されてとても面白かった。
- ・ごみを出さないのではなく、リサイクルしていく視点を持つことが持続的な社会をつくっていくためには大切であり、家庭科の授業でも紹介したいと思った。
- ・「ごみ袋への要望」という発想は他の市町で生活されたご経験があったからだと思う。こうした小さな気づきが市民活動の第一歩なのだと感じた。
- ・ごみと向き合うことはあるけれど、ごみ袋と向き合うことはなかったため大変面白かった。
- ・今後高齢化によりおむつを使用する方も増えるがおむつに焦点を当てて菊川市のブランディングを行うことは新規性がある発想だと感じた。

## ⑥菊川のシゴト体感プロジェクト

- ・ターゲットの年齢や実現の可能性を考えた具体的な提案として分かりやすい発表だったと思う。
- ・小学生のうちからの取り組みは良いだね。
- ・小学生の年代から菊川市へ就職する気持ちを持たせる（根付かせる）良い企画だと思う。
- ・地域支援課で職業講話を実施しているので、協力しながら実施できたらと思う。
- ・小学生のうちに仕事に興味を持ってもらうことは大切だと感じた。
- ・菊川に大人になっても住んでもらえるような取り組みにつながる。
- ・工場見学を行ったことがあるが、とてもいい経験になり仕事について肌で感じる事ができた。
- ・小学生から体験してもらうことは良い取り組みだと思う。
- ・現在実施している職業体験をバージョンアップしていける！？
- ・まずは知ってもらうこと、知ってもらうことが重要。
- ・若者の流出は大きな問題であるので小学生から地元の仕事を体験するというのは良いと思う。
- ・市内企業で働くイメージを持つことが将来の市内就労に影響があると思う。実現を期待しています。
- ・早いうちの仕事体験や将来につながるの確かなこと、その取り組みは重要と思う。
- ・課題に挙げられた企業側、体験側の認識づけをどのようにするか他との違いが必要かなと思う。
- ・小さい頃からの経験→地元へ就職→職場体験に関わって子供たちに教えるというサイクルができるといいなと思った。
- ・中学校では生徒のキャリア教育として同様の取り組みがされているので、参考にしながらぜひ進めて頂ければと思う。
- ・教育の中で平等化が進む中、進学することを優先的になっている実情においてどのような効率的な事業にできるかが重要だと感じている。
- ・まちにいる方（近所の方）がどんな仕事をしているのかさえ知らないなので、地域内でお仕事の話聞く会にするだけでも面白そう。
- ・小学生対象であれば一人が一か所だけでなく、何か所も行けるような仕組みにすれば、

選択肢が広がり良い経験になると思う。

- ・小学生のうちに地元企業の職場体験ができるのは大きい。
- ・地元への愛情も生まれやすいと思う。

#### ⑦地域資源を活用した生活講座~地域の宝を生活に生かそう~

- ・今後の展望として参加者と共に創っていくというのがとてもいいと思った。
- ・菊川の未来を担う中高生での交流も入っており、色んな発展がありそうだなと思った。
- ・若いうちに農業に関われるのは良いね。
- ・地元でどんな作物が取れるのかどのように栽培されるのかを知ることがとても重要だと思った。
- ・野菜を育てる（種まき）から口に入れるよう料理（レシピまで考える）まで体験するのは良い体験になると思う。
- ・食について等の授業の時間が取れなくなっているなら、地域でやろうというのは子ども達にとっていいことというか、必要なことになってくるのかなと思った。食は色々な人に関係していることなのでつながりやすいと思う。
- ・小中学生が自分の食物に関心を持ってもらうことはとても良いと思った。
- ・菊川市も含め農業の担い手が少なくなっている中で、農業に関心が持ってくれるといいと思った。
- ・食物のペット化など友達同士で連絡し合うなど面白いなと思った。
- ・中学生の職業体験などで農家さんへ行くとか夏休みにやれたらいい。
- ・発泡スチロールでの「マイ畑」良い！
- ・自分たちで作った食物を食べるなどイベントでやれたらいいと思った。
- ・中学生へのアプローチで小笠高校への進学にもつながると思った。
- ・すぐにできる事かなと思った。
- ・ジュニアビレッジに近いものがありそう。
- ・この食育講座が実現できれば、地域にとって多くのメリットがあると思う。
- ・協力したいと思ってくれる農家も多いのではないかな？
- ・テーマは小中学生への食育講座だが、農業から離れる農家が増えるなか、農家のモチベーション向上に繋がり、農業の継続性にもつながるのではないかなと思う。
- ・自分が育てることで食に対する意識は劇的に変わってくると思う。



- ・食を大切にすることが増えていく事で、健康な方が増える好循環が生まれることを期待する。
- ・食育を通じて農業へ興味を持ってもらえると課題解決にもつながると思った。
- ・食育の取り組みはどうアプローチするのが難しいと感じているので、ぜひ取り組みを進めて頂いて、食・農にいい意味の関心を持ってもらうためのいいきっかけになってもらいたいと思う。
- ・具体的な手続き、取り組み手法を詰めて頂いて、協力できるところが明確になればと思う。
- ・「生き物の命が自分たちの栄養につながる」こうした視点を持って農作物を作りその苦勞を体感し採れた作物を食す。こうした体験を通して資源を大切にしたい人が増えてくれればいいと思った。
- ・食育は大切なコトだけど小さなところからスタートできたらいいなと思う。
- ・作物を育てる体験は食育の原点だと思う。
- ・市や県には栄養士がいて、食生活推進協議会という団体もあるため連携できるのではないかなと思う。
- ・県では野菜マシマシプロジェクトも推進しており企業連携もしているので、このようなプロジェクトとのコラボも良いのでは？
- ・実体験・データ収集により菊川市の発展に置き換えて良く勉強をした企画だと思う。
- ・食育を通し中学生が地元の農家さんや高校生とつながることができる新しい場となるのも魅力だなと感じた。また、農家の方が講師になることで、農家の方が活躍する場も増やせる点も良いと思う。
- ・「衣・食・住」という生活に密着したテーマと地域の資源を用いることをかけあわせることで大きなテーマを、身近な問題として受け止められると思う。
- ・ホームセンター協力が必要かな？→win winになる！
- ・小笠高校を具体的に出していたので高校生にとっても良い体験になると思った。

#### ⑧全体コメント

- ・誰かが行動を起こすことで派生していろんな人が影響を受けていくこと積み重ねで、地域が発展していくのだなと実感できた。貴重な機会をありがとうございました。
- ・それぞれ市と連携した取り組みとなっていて、いく方向性も観光・商工・子育て・情報・DX コラボが実現することを期待しています！

- ・本当は河城のプレゼンを聞くつもりだったのだが、遅刻して聞けなくて残念だ。
- ・たくさん自分の身近な問題で興味深かった。コロナ禍で自分たちの住む環境が変化したのでこの問題を医療との関係問題解決につなげていけたらと思う。ので、医師・医療従事者など権限のある方の意見を聞いてみたいと思った。

本日はありがとうございました。

- ・どの発表も菊川市での人々の意識の問題点や現状をしっかりと把握し、それに対する解決策や今後の見通しを具体的かつ現実的に立てられていたので、すごいと思った。
- ・皆さんプレゼン上手だね！資料も分かりやすく良かった。初めて参加した。が、このような塾は良いですね。ありがとうございました。
- ・途中から参加だった。が、皆さんしっかりと企画を考えられており刺激を受けた。ありがとうございました。
- ・とても面白い取り組みが多いと思った。活動を持続するための視点と参加者の利便性（利用者のニーズ）をもう少し深堀できれば、定期的に収入も得られて持続可能な活動になるかと思う。
- ・土の方も具体的で素晴らしかったと思う。想いの詰まったプランで楽しく頼もしかった。
- ・プレプレゼンから資料も発表もブラッシュアップされていて、とても良かった。
- ・これまではグループプレゼンだった。が、今回は個人だったのが変化を感じて良かった。（マイプロジェクトも良いと思った）
- ・MAP系のブラッシュアップは全て「きくのんマップ」を共通で使えば効果あり！
- ・各発表とも現状や課題の把握をしっかりとしており、どのようにより良い環境や将来に繋げるかの企画・提案がされておりどれも興味深かった。
- ・新しい視点でのアイデアが多く聞いていてわくわくするような企画だった。多様な主体で企画・実現できればいいなと思った。
- ・全員の発表は完成度が高く目的や手法がはっきりしていて面白く聞くことができた。ありがとうございました。
- ・一人で期間が短い中とはとても思えない発表だったと思う。
- ・大学生や市外からも参加していて、菊川市の現状や課題に向き合って提案されていて大変うれしく感じた。皆さんの発表もとても上手でわかりやすかった。提案の実現には色々なところと連携する必要があるが、1つでも多くできるところから実現できたらいいと思った。

- ・どの発表者の方も独自の視点で研究されており、パワーポイントも見やすく発表も分かりやすかった。
- ・各々の提案をぜひ実現して菊川の魅力発信につなげてほしい。
- ・菊川市をより良いまちづくりにしたいという思いが強く伝わった。
- ・きくがわ未来塾を通して普段関わることのない市民の方や講師アドバイザーの皆さまとお話することができ、大変充実した時間を過ごすことができた。飯倉さんのお話しでは生活するうえで大切な知識や聞き手に伝わるプレゼンの仕方などを教えていただき勉強になりました。未来塾で菊川市のために何かしたい！と思っている方がたくさんいることを実感した。その方々が活躍できる環境が菊川にはあると思うので地元の友人にも広げていきたい。
- ・毎回、公開プレゼンに大勢の見学者が参加されてすごいと思う。菊川市の市民活動のレベルの高さを感じさせられた。
- ・貴重な機会となった。ありがとうございました。
- ・プレゼンテーションの作り方、話し方など勉強になった。ありがとうございました。